

令和7年度DXコネクトセンター所管研究会一覧表

令和7年7月24日

設置 領域	領域長	研究会名	代表者	研究会概要
地 域 創 生 ・ 安 全 工 学	酒 匂 一 成 (海洋土木工学)	コンクリート構造物の 診断技術研究会 (H29.1.10～)	審 良 善 和 (海洋土木工学)	コンクリート構造物に対する維持管理の重要性に鑑み、建設後の構造物の状態を正しく診断するための既存技術の応用及び新技術の開発研究を行うと同時に地元で活躍する土木技術者の技術力向上を図る。
		加工計測 I o T研究会 (H29.2.1～)	熊 澤 典 良 (機械工学)	機械加工の高度自動化を行うための加工計測、状態監視、制御、I o Tを統合するシステムの研究を産学官で推進し、そのノウハウにより県内企業の生産性の向上に寄与することを目指す。
		鹿児島版地盤情報 データベース研究会 (H29.4.1～)	酒 匂 一 成 (海洋土木工学)	これまでに県内のボーリング等のデータ収集に取り組み、これらのデータを元に鹿児島県の任意の三次元地盤図を表示・活用するためのシステムの構築などを行ってきた。構築してきたデータベースの内容向上や土木技術者などを対象にした利活用方法について検討し、システムの実用化を目指している。
		火山ガラス微粉末の 社会実装に向けた 研究会 (R7.7.24～)	山 口 明 伸 (海洋土木工学)	鹿児島県内に広く分布するシラスを原料とする火山ガラス微粉末（VGP）は、コンクリートの混和材として新たにJISに追加されたものの、未だ十分に活用されている状況にない。本研究会では、VGPの使途拡大と社会実装に資する産官学連携の活動を推進することを目的とする。

環境・エネルギー	鷹野 敦 (建築学)	ライフサイクルハウス研究会 (H29.4.1～)	鷹野 敦 (建築学)	木材のみで建物を作る「Jログ工法」を基盤とし、木材の特性を最大限に活かした”人”にも”自然環境”にも最適な新しい木質工法システム（ライフサイクルハウスシステム）の研究開発を行う。
		資源リサイクル研究開発研究会 (R6.4.1～)	加藤 太郎 (化学)	脱炭素化の流れを実現するためには、これまで廃棄物とみなされていた化石燃料由来の化学製品をリサイクルして再利用する取り組みを推進すると同時に、そもそも化石燃料に依存しない基幹物質の生産推進が必要不可欠です。本研究会では、化学とバイオの知見を有する研究者が集まりその強みを組み合わせることで、持続的社会の発展と地域産業の高度化を推進する地域イノベーションを創出し、資源リサイクル問題の解決につなげます。
		有人離島における再生可能エネルギーを活用した地域社会モデル研究会 (H29.7.1～) 【休会】	加古 真一郎 (海洋土木工学)	本土から遠く離れた小離島のような厳しい地理条件に置かれた地域が抱える様々な問題を解決し豊かな地域社会を形成するため、再生可能エネルギーの効率的な作り方から貯め方、使い方を研究することを目的とする。
先端物質材料開発	二井 晋 (化学工学)	食品加工開拓研究会 (H29.1.16～)	武井 孝行 (化学工学)	卵白や黒酢等の食品加工を視野に入れた独自の粉体化と経験的に効能がある素材での機能性成分の特定、抽出、複合化等の技術に興味をもつ南九州地区の産学官の交流・討議の場とする。
天文宇宙	片野田 洋 (機械工学)	鹿児島ハイブリッドロケット研究会 (H29.1.10～)	片野田 洋 (機械工学)	小型ハイブリッドロケットに必要な各種要素技術に関する情報収集と各自技術の開発を行い、県内企業とも協力しながら鹿児島県産小型ハイブリッドロケットの製造と打ち上げを目指す。